

# 山辺高にマンゴー贈る

## 山形工業高 スイーツ大会の材料用

校内でマンゴーの温室栽培に取り組んでいる山形市の山形工業高（高橋良治校長）は4日、スイーツ甲子園東日本予選大会（11、12日、宇都宮市）に出場する山辺町の山辺高（渡辺浩之校長）食物科の生徒に摘果したマンゴーをケーキの材料として提供した。

山形工業高は昨年からIoT（モノのインターネット）技術を活用した「スマートマンゴー工場」を建て、栽培に挑戦。先月、完熟マンゴーの収穫に成功した。

事業資金は山形新聞社のクラウドファンディング「山形サポート」で募った。

SDGs（国連の持続可能な開発目標）の実現も目指しており、未熟マンゴーの使い道を山辺高に相談。同科の生徒が糖分やレモンの酸味を加えるなど試行錯誤し、角切りをクリームに入れるアイデアを考えた。

贈呈式が山形工業高で行われ、大会に出場する同科の3年生2人が試作を持って訪れた。山形工業高3年

で生徒会長の金光一心さん（17）は「摘果されたマンゴーを活用してもらいありがたい」と本番用のマンゴー5個を手渡した。同科の山口真奈さん（18）は「マンゴーで両校のつながりも表現し、全国を目指す」と意気込んでいた。

（瀬野麻衣）



山形新聞 令和3年8月5日(木)